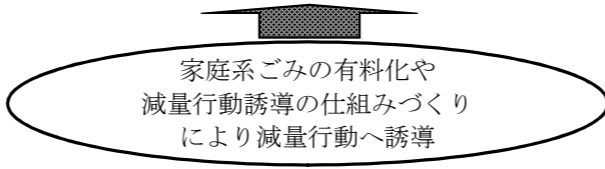
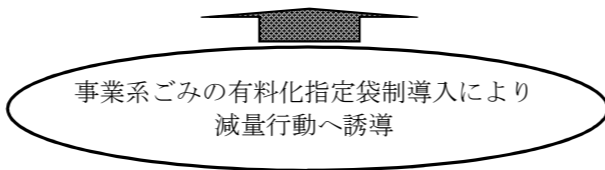


表 ごみ半減の実現に向けた基本施策の枠組み（案）

対象品目		ごみ中の割合 H22.3 調査結果	ごみとしての 排出量（t） 可燃ごみ量 (H21) ×ごみ中割合	主な減量施策	削減目標量	削減に関する根拠	半減行動実現に向けた課題	
家庭系 約27千トン (76%) ●可燃22千トン 資源2千トン 粗大等2千トン	紙類	古紙類 新聞・雑誌・段ボール	12%	2,659 t	①集団回収の活性化 →●活動団体の増加、参加世帯の増加等 ●役員に負担のかからない方式の採用（神戸方式等） ②ステーション古紙分別排出の浸透 →●分別排出をごみの出し方に明記 (現行 895ト回収)	2,200 t	★新たに50g/人/日の古紙回収量（古布も含む）の増加 (参考) H21の古紙等回収量（集団回収+ステーション回収+持込）=96g/人/日 →枚方市集団回収量156g/人/日（H20） プラス50g/人/日	●集団回収の育成
		紙パック	0.4%	89 t	①集団回収の活性化 ②拠点回収の拡充（現在約50カ所） →●民間施設等へ拠点数の増加			
		雑がみ 紙箱・包装紙、折り込み広告・PR誌、封筒等	10%	2,216 t	○集団回収による回収 →●補助対象への追加 ●回収してもらえるよう古紙回収業者と調整	1,800 t	★ごみ中の概ね8割の量を回収 (参考) 姫路市の雑がみ分別回収量3,717 t（H20） →生駒市の人口に比例させると約800 t	●補助金の増額、古紙回収業者との調整
	プラスチック類	ペットボトル	0.2%	44 t	○分別収集の拡充（現在月1回） →●回収頻度の増加	—		
		プラスチック製容器包装	10%	2,216 t	○分別収集の浸透 →●収集対象品目のきちんとした説明の徹底	1,000 t	★1,300 t × 80% (参考) 異物20%を除く純プラスチック製容器包装量	●きめ細かな市民への説明
	厨芥類	発生抑制対象（手を付けずにパック入りのまま捨てられた食料品等は除く）	29%	6,427 t	①生ごみ分別収集の実施 →●当初は施設改造によるエコパーク受入量（8t/日=約3千t/年 半分の地域=ニュータウン地域中心） ●将来は全市実施 ②各戸生ごみ処理器等の普及 →●現在の利用世帯約6,000戸=推定約800t投入	5,800 t	★9割の参加を目標 (参考) 手付かず食品の6%は除く	●生ごみ分別への市民の参加と協力 ・ステーションの管理（特に既存市街地） ・分別排出の徹底 ・可燃ごみ収集の週1回化の検討 ●エコパーク施設改造 ●収集体制の整備 ●全市を対象とした受入施設の整備 ●生産された堆肥の利用先の確保
	剪定枝	※季節変動有り	4%	886 t	○地域の公園等を活用したチップ化事業の推進	700 t	★8割減	●チップ化時の騒音対策 ●チップの活用先の確保
	粗大ごみ	※収集量データ	—	663 t		500 t	★8割減（電話申告制の導入）	
	発生抑制	手を付けずに捨てられる食品	6%	1,330 t	○環境学習の充実、もったいない運動の展開	1,200 t	★9割減	●もったいない意識の定着と実践
	有料化						★一般的には家庭ごみの1～2割の削減効果を発揮	
家庭系合計			16,530 t		13,200 t			
事業系 約9千トン (24%) 可燃7千トン 持込3千トン	資源化の取組指導 市民と連携した取組の展開	59%	3,976 t	①大規模事業所=食品リサイクルの推進 ②小規模事業所=生ごみ分別収集へ参加、資源ごみの分別排出、段ボール等の共同回収事業の展開 ③飲食店・食品販売店における食品ロス削減運動の展開	3,500 t	※59%は京都市の調査結果から (古紙類14%、びん・缶等4%、厨芥類41%)	●事業系ごみ減量対策の職員の充実 ●食品リサイクルの推進 ●小規模事業所への分別排出の浸透 ●市民と販売店・飲食店が連携した食品ロス運動の展開	
	有料指定袋制					★神戸市の例では対前年度比28%の削減効果を発揮		
	事業系合計			3,976 t		3,500 t		
総合計 約36千トン (100%)			20,506 t		16,700 t			

家庭系ごみ 22,161 t
事業系ごみ 6,739 t

人口 119,972人
世帯 45274 H21.4